

自工会「ヒューマンファクタ WG」設立と SIP との連携について

2017 年 3 月 22 日（水）

SIP 構成員・HMI リーダー

本田技術研究所四輪 R&D センター 鵜浦清純

【背景】

2016 年 8 月より自工会・自技会・SIP 連携の会議を開催し、各組織の HMI に関する取り組みについて、取り組み内容の重複や不整合などが起こらぬよう、また SIP の成果を計画的に ISO 標準に提案していくことを目的に、自工会・HMI 分科会を中心に整合を図ってきた。

その活動の成果としては、SIP HMI タスクフォースで検討した取り組み課題の全体像（ドライバーのシステムへの理解に関する課題、ドライバー状態とシステム状態の遷移に関する課題、ドライバーと他の交通参加者に関する課題）を共有し、重複のない研究開発テーマ設定や、DS 実験のシナリオと評価に使用する HMI 装置の共通化等を図ってきた。

【自工会「ヒューマンファクタ WG」設立】

一方、国連・自動車基準調和世界フォーラム（WP29）への打ち込みや ISO 標準化に向けた計画をより綿密かつタイムリーに推進するに当たり、SIP や自工会を含めた日本の自動運転に関する研究開発成果をより専門的に分析し、計画に反映していく必要が出てきた。即ちヒューマンファクタに関連する技術的知見は元に、システム要件や試験条件など実用化に向けた議論が重要となり、また国際議論をリードする上でも自動運転機能に対するヒューマンファクタ関連の技術的知見をより強固にするとの方考え方から、自工会・自動運検討会の元に「ヒューマンファクタ WG」が設立され、2017 年 4 月から活動することとなった。その活動のスコープとアウトプットは以下の通りである。

<スコープ>

自動運転機能やシステム要件に関連するヒューマンファクタ由来の技術的知見の獲得。

<アウトプット>

自動運転技術の国際基準調和／標準化に関わる議論や 関連法規制における技術要件、及び試験法制定に必要な技術的知見のタイムリーな情報提供や提案。

【産学連携の強化に向けて】

SIP では従来から産学官連携の取り組みを推進してきたが、従来の自工会との連携を自動運転検討会の「ヒューマンファクタ WG」との連携に発展させ、産学の連携をより強固にすることとする。

以上